

Magic xpi 4.7 Release Notes



OUTPERFORM THE FUTURE™

Magic xpi 4.7 全般情報

Magic xpi 4.7 の紹介

Magic Software の Magic xpi インテグレーション プラットフォームの新しいメジャーリリースをお届けします。新機能および拡張された機能を使用することで、新しいルック アンド フィールでユーザエクスペリエンスを向上させるとともに、容易にインテグレーション プロジェクトに機能を追加することができます。

Magic xpi 4.7 では Magic xpa 3.2 が使用されています。

Magic xpi 4.6 から Magic xpi 4.7 へのマイグレーション

Magic xpi 4.6 で作成されたプロジェクトは自動的にアップグレードします。Magic xpi 4.6 で作成したプロジェクトをフォルダごと Magic xpi 4.7 のプロジェクト フォルダにコピーし、Magic xpi 4.7 の Magic xpi スタジオでプロジェクトを開いてください。

Magic xpi 4.1 から Magic xpi 4.6 へのマイグレーション

既存の .ibs ファイルを開くと、マイグレーション ウィザードが自動実行されます。
注:プロジェクトのオブジェクト名がロケールの言語（ドイツ語のフロー名や変数名など）である場合、マシンのロケールは、マイグレーションを実行するときにプロジェクトで使用されるロケールと一致させる必要があります。さらに、`magic.ini` ファイルの `[MAGIC_ENV] ExternalCodePage` フラグも、使用されているロケールと一致する必要があります(日本語は 932)。

jBOLTV3.0 、 V3.2、 Magic xpi 3.4 から Magic xpi 4.6 へのアップグレード

jBOLT V3.0x、V3.2x、Magic xpi 3.4 で作成されたプロジェクトは自動的にアップグレードします。jBOLT V3.0x、V3.2x、Magic xpi 3.4 で作成したプロジェクトをフォルダごと Magic xpi 4.6 のプロジェクト フォルダにコピーし、Magic xpi 4.6 の Magic xpi スタジオでプロジェクトを開いてください。



マイグレーション後に必要な手順

- uniPaaS で作成された uniPaaS のステップとコンポーネント SDK のステップは、**Magic xpa に手動で移行する必要があります。**
- Web サービスサーバは、移行後に手動で**再設定する必要があります。**
- 外部ファイルは、旧プロジェクトの階層に従い、新しいプロジェクトでの所定の場所にコピーする必要があります。
- マイグレーション プロセスでは、.ini ファイルおよびその値は変更されません。新しい値を使用するには、マイグレーション後に古い ifs.ini ファイルを削除 or 名前を変更して、プロジェクトをビルドし直します。新たな ifs.ini ファイルが新しい値で作成されます。
- Magic.ini ファイル(ifs.ini ファイルではない)に論理名が定義されている場合は、プロジェクトをマイグレーションする時に論理名(環境変数)を **Magic.ini** ファイルまたは ifs.ini ファイルに追加します。環境変数がプロジェクト固有のものである場合は、それらをプロジェクトの ifs.ini ファイルに追加します。プロジェクト固有でない環境変数の場合は、**Magic.ini** ファイルに設定します。Magic xpi 4.7 はプロジェクトの中心です。つまり、スタジオは ifs.ini ファイルから環境変数を読み込みます。
- フロー起動(Invoke Flow)ユーティリティ内でハードコード ID を含む式が使用されている場合、マイグレーション時にこれらの ID が変更される可能性があります。そのため、マイグレーション プロセス後に ID が正しいものを指していない可能性があります。実行時にフローまたはビジネスプロセス名に基づいて ID を計算する **GetFlowID** や **GetBPID** などの専用関数を使用することをお勧めします。
- **SpecialExpReturnNull** フラグがマイグレーション後のプロジェクトの ifs.ini ファイルにまだ存在しない場合は、そのファイルの[MAGIC_SPECIALS]セクションに追加し、Y に設定して以前のバージョンの Magic xpi または iBOLT で作成されたプロジェクトとの下位互換性を維持する必要があります。このフラグは、Null 値を持つ変数と空の値を比較するときの下位互換性を維持します。
- マイグレーションしたプロジェクトにユーザ定義コンポーネントが含まれている場合は、それらのフォルダを元の場所から新しい場所にコピーする必要があります。ユーザ定義コンポーネントが使用している **Resource_types.xml** ファイルと **Service_types.xml** ファイルの変更はすべて手動で行う必要があります。
- JD Edwards World リソース定義は定義が存在しない場合、ライブラリで更新する必要があります。
- JD Edwards Enterprise One の設定が簡素化され、専用のクラスローダーが使用できるようになりました。**Magic.ini classpath** に全ての jar ファイルを記載する必要はなくなりました。クラスローダーを使用する場合は、**jar** フォルダから **j2ee1_3.jar** を削除してください。具体的な手順については、**Magic xpi ヘルプ** の **JD Edwards Enterprise One コネクタの設定** を参照してください。
- Salesforce メタデータ API に大きな変更があったため、メタデータ CRUD メソッドの**更新および削除**オペレーションを再構成する必要があります。



ライセンスング

Magic xpi 4.7 を使用するには、バージョン 4.x のライセンスを取得する必要があります。 Magic xpi ライセンスを取得するには、お近くの Magic Software 担当者にお問い合わせください。

前提条件の変更

.NET フレームワーク

Magic xpi スタジオの各モジュールは.NET Framework で開発されています。以下の.NET Framework が必要です。:

- Magic xpi スタジオを使用してアプリケーションを開発するには、お使いのマシンに.NET Framework V4.0(または以降)がインストールされている必要があります。
- 実行時、Magic xpi インメモリ データ グリッドリクエストには.NET Framework V4.0 (または以降)が必要です。

スタジオのインストール

Magic xpi スタジオは、Microsoft Visual Studio で開発されています。Microsoft Visual Studio は、ネットワークフォルダから起動できません。したがって、ネットワークフォルダから Magic xpi スタジオを起動することはできません。

内部データベースの変更

内部データベースへの書込と読取は Magic xpa データベース ゲートウェイではなく、JDBC で行われます。 Magic xpi は MSSQL データベースの JDBC ドライバ(JAR ファイル)を提供します。他のデータベースを使用するには:

1. JDBC ドライバを以下のフォルダにコピーします。:
<Magic xpi 4.7>\Runtime\java\DatabaseDrivers
2. 使用する DBMS と一致するよう Runtime\config\datasource.xml ファイルのデータベース設定を行います。 datasource.xml で定義されている driverClassName が JDBC ドライバと互換性があることを確認します。



新機能、強化された機能および動作の変更

OData プロバイダ

OData プロバイダは Magic xpi のサービスとして利用可能になりました。また、OData サービスはユーザが OData サービス構造を定義するためのエンティティヘルパーを提供します。

エンコーディングパラメータ

エンコーディングパラメータが HTTP コンポーネントに追加されました。これにより HTTP ステップの POST および REST メソッドで発行するリクエスト本文のエンコーディングを指定できるようになりました。

エンコーディングパラメータは FileManagement コンポーネントにも追加されました。これにより [Append BLOB To File]、[Create File]、[Write File] メソッドでファイルを作成する際にエンコーディングを指定できるようになりました。

元に戻すとやり直し(Undo and Redo)コマンド

Magic xpi スタジオのフローエディタで 1 つまたは複数の操作を元に戻し、取り消した変更をやり直すことができるようになりました。

必要なライセンス

必要なライセンスメニューは、Magic xpi Studio の [ヘルプ] メニューでご利用いただけます。これは、開いているプロジェクトに必要なライセンスを示します。

フローエディタの機能拡張

次の機能が Magic xpi Studio で利用できるようになりました。:

- ・複数のステップをコピーして貼り付ける。
- ・親ブランチとブランチの間にステップを挿入する。
- ・データマッパーのプロジェクトパスリンク (BP および flow) を使用して、対応するデータマッピングステップを指すフローエディタに戻ることができます。

Magic xpa Runtime Support

コネクタビルダーユーティリティでは Magic xpa をランタイム技術としてサポートするようになりました。このオプションはフローエディタでステップとトリガーに使用できません。

インストーラのアップグレード

既存の Magic xpi 4.6 インストールを Magic xpi 4.7 にアップグレードすることができます。

ソリューションエクスプローラアイコンの表示

ソリューションエクスプローラに、フローの状態を示す新しいアイコンが表示されるようになりました。

モニタの機能拡張

Magic モニタのアクティビティログテーブルにステップ列が追加されました。フィルタされたアクティビティログテーブルの場合、[ステップ]、[FSID]、[ルートFSID]、および[フロー要求 ID]の各列が[添付 Blob]ボタンとともに追加されました。

SAPB1 - SLD サーバのサポート

Magic xpi は、SAPB1 の SLD サーバをサポートします。リソースに追加された新しいプロパティによって、ユーザはライセンスサーバと SLD サーバのどちらかを選択できます。

SharePoint ADFS のサポート

SharePoint Online コネクタはアクティブディレクトリフェデレーションサービス (ADFS) をサポートします。

Dynamics365 のサポート

Magic xpi は Dynamics365 との接続確認を行い、正しく動作することが確認されました。

Salesforce コネクタのアップグレード

Magic xpi Salesforce コネクタは Salesforce API 39 を使用するようアップグレードされました。

WebSphereMQ リソース

WebSphere MQ リソースは、ユーザーID とパスワードに基づく認証をサポートするようになりました。

SAPB1 9.3 サポート

Magic xpi は MSSQL 2016 ベースの SAP B1 9.3 をサポートします。

削除された機能

以下の機能は Magic xpi 4.7 ではサポートされなくなりました。:

- 権利リポジトリ
- セキュリティ グループ リポジトリ
- ユーザ リポジトリ
- プロジェクト パッケージ
- COM コンポーネント: プロジェクトマイグレーション実行時、COM トリガーは削除されます。
- EJB コンポーネント: プロジェクトマイグレーション実行時、EJB ステップは NOP ステップとして処理され、トリガーは削除されます。
- Domino コンポーネント トリガー: プロジェクトマイグレーション実行時、Domino トリガーは削除されます。
- W4 コンポーネント: プロジェクトマイグレーション実行時、W4 ステップは NOP ステップとして処理され、トリガーは削除されます。
- ItemField コンポーネント: プロジェクトマイグレーション実行時、ItemField コンポーネントは削除されます。
- レガシー モニタ (Magic xpi モニタ) と ifm.ini ファイル
- テキスト区域ツール
- リファレンス検索機能ではリソースおよびサービスを検索できません。リソースまたはサービスの使用場所を確認するには、現在のプロジェクトでテキスト検索オプションを使用します。
- WS ブリッジ
- SharedValGet および SharedValSet 関数
- Magic xpi 4.6 は Windows® 2003 サーバでは動作しません。これは Microsoft 社が Windows® 2003 サーバで .NET Framework 4.5.2 (Magic xpi 4.7 で必要) をサポートしないためです。
- **プロジェクト名変更オプションは削除されました。プロジェクト名を変更するには、別名で保存 オプションを使用します。**

- オブジェクト名には以下の文字を使用できません：[スペース] ~ ` ! @ # , % ^ & * - = + () { } [] | " ? / \ < > ; 複数のドット (.)。
- SNMP コンポーネント

現在サポートされていない機能

次の機能は現在、Magic xpi ではサポートされていません。：

- カスタマイズダイアログボックス
- UDDI サーバ
- JSON スキーマ内に以下のキーワードが使用されている場合：not
- トポロジーとビジネスプロセス エディタ



既知の問題 と使用上の制約

Magic xpi の現行バージョンの既知の問題と使用上の制約は以下の通りです:

Magic xpi インストール

- Magic xpi をスペースを含むフォルダにインストールする際は、8dot3name サポートを有効にしておかなければなりません。詳細は *Magic xpi インストールガイド* を参照してください。
- Magic xpi 4.7は同一筐体のコンピュータに過去バージョンとの複数インストールを行うことはできません。Magic xpi 4.7をインストールするコンピュータに過去バージョンがインストールされていないことを必ず確認してください。過去バージョン(Magic xpi 4.6)がインストールされている場合、インストーラは Magic xpi 4.7で過去バージョンフォルダー内を上書きし、Magic xpi 4.7をインストールします。
- Magic xpi 4.7をインストールするユーザおよび起動するユーザはインストールするコンピュータに対するAdministrator権限が必要です (Administratorsグループに所属する必要があります)。
- 内部データベースとして MSSQL を使用する場合、Magic xpi4.7 のインストール後、「SQL Server 20XX 構成マネージャー」を使用して以下の設定を行わなければなりません。
 - SQL Server ネットワークの構成 : TCP/IP を有効にします
 - TCP/IP のプロパティ画面 : IP アドレスタブ内の IPAll に TCP ポートとして 1433 を設定します。

Magic xpi 動作全般

- Magic xpi 4.7 では、変数名の長さは 30 桁までです。しかしながら Magic xpi 4.7 は変数に接頭辞として F.、C.、G. を自動的に付与します。ゆえに変数名の実質的な最大長は 28 桁となります。
- プロジェクトを jBOLT V3.0x および V3.2x、Magic xpi 3.4、Magic xpi4.1 から Magic xpi 4.7 に直接にアップグレードした場合、リソース内に指定した各パスワードは再定義する必要があります。
- Magic.ini ファイル内 [MAGIC_SPECIALS]セクションの SpecialAnsiExpression=フラグの値で、文字列の扱い方が変わります。
 - SpecialAnsiExpression=Y の場合 : 日本語文字列をバイト単位で取り扱います。
 - SpecialAnsiExpression=N の場合 : 日本語文字列を文字単位で取り扱います。

従って、UNICODE 文字を使用する場合は、必ず「SpecialAnsiExpression=N」と設定してください。「SpecialAnsiExpression=Y」と設定した場合、文字化けを起こす場合があります。

インストール時のデフォルト設定は「SpecialAnsiExpression=N」となっています。

プロジェクトのマイグレーション時には、この点に注意が必要です。

Magic jBOLT V3.0、3.2 のデフォルト設定は : SpecialAnsiExpression=N

Magic xpi 3.4 のデフォルト設定は : SpecialAnsiExpression=Y

Magic xpi 4.1、4.6 のデフォルト設定は : SpecialAnsiExpression=N

となっている点にご注意ください。

このフラグの値により、文字列操作関数の結果も異なります。たとえば、Len()関数の場合：

SpecialAnsiExpression=N の時 : Len('あいうえお')は 5 (5 文字)

SpecialAnsiExpression=Y の時 : Len('あいうえお')は 10 (10 バイト) を返します。

SpecialAnsiExpression の設定値で動作に影響がある関数は以下の通りです。

InStr()	Len()	MID()	MIDV()	Right()	Left()	StrToken()
StrTokenCnt()	StrTokenIdx()	Del()	Fill()	Ins()	Rep()	RepV()

- .NET Utility で作成した .NET Framework 対応プログラムを含むプロジェクトを実行した際、以下のエラーが発生する場合があります。

Error in .NET invocation:IFC1.IFC1 Code:2140930047 Set

Property:iBOLTFramework.dll location

このエラーが発生した際は lboltinvoker.dll ファイルをレジストリから一旦削除し、以下のコマンドでレジストリに再登録してください。:

'RegAsm lboltinvoker.dll /tlb:lboltinvoker.tlb'

- スタジオは Magic.ini ファイルの classpath を読み込みません。代わりに、OS 環境変数の classpath に jar ファイルを指定するか、jar ファイルを runtime\java\lib フォルダにコピーする必要があります。
- Magic xpi はバージョン管理を行うバージョン管理ソフトウェアをサポートしています。プロジェクトツリーが変更された場合は、バージョンコントロールプロバイダのエクスプローラを使用してプロジェクト全体を取得する必要があります。
- フローを一時停止に設定しても、フローは自動的にチェックアウトされません。
- エディタで開く コンテキストメニューオプションはマッピングファイルではサポートされません。
- Notes DB リソースのホスト名プロパティでは環境変数は使用できません。
- resources.xml ファイルと services.xml ファイルがプロジェクト フォルダ内に存在する場合、スタンドアロン エディタはリソースとサービスの編集のみ行うことができます。
- 数値の場合、ノード特性(データマッパー)の書式プロパティには N12.4 のように、数値、小数点、マイナスを表す N のみ指定することができます。
- 入力値パラメータにスペースを含む文字列が設定されている場合、検証コンポーネントの Empty Field メソッドは False 値を返します。

- プロジェクトを Magic xpi 4.7 にマイグレーションする前に、データマッパーで使用する全ての XSD ファイルが所定の場所で使用可能であることを確認してください。
- パーセント記号 (%) は、データベース リソースのパスワードでは使用できません。
- アップグレードされた Magic xpi 4.7 プロジェクトでは、既存の SAPB1 リソースを変更して SAP HANA データベースを使用することはできません。SAP HANA データベースを使用するには、新しい SAPB1 リソースを作成する必要があります。
- 一部日本語表示されない画面、メッセージがあります。
- Magic xpi 4.7 以降では、変数のデフォルト値が使用されている場合、空白（スペース）は変数値からトリミングされます。
- Magic xpi 4.7 以降では、実行時、変数のデフォルト値は、定義されている長さに従ってトリミングされます。

プロジェクトのマイグレーション

- 旧バージョンからマイグレーションをしたプロジェクトを保存する際、ソリューションファイル(*.sln)ファイルの保存先として、<Magic xpi プロジェクト フォルダ>\<プロジェクト名>\<プロジェクト名>\<プロジェクト名>.sln がデフォルト保存先として表示されますが、このフォルダには保存せず、<Magic xpi プロジェクト フォルダ>\<プロジェクト名>\<プロジェクト名>.sln として必ず保存してください。
- ・プロジェクトが相対パスを使用してプロジェクトフォルダ以外のファイルを参照している場合、マイグレーション後に新しく作成されたプロジェクトでは参照が復元されません。参照を復元するには、外部参照を使用する全てのデータマップを開いてから保存します。このようなデータマップを見つけるには、プロジェクトでチェッカーを実行してください。

Magic モニタ

- Magic モニタは使用できる Web ブラウザとして Internet Explorer 11 のみをサポートします。他の Web ブラウザはサポートされません。

Google Calendar コンポーネント

- ユーザーアクセス制御権限を参照する場合、Google Calendar™ からは以下の値が返されます。 : **freeBusyReader, reader, writer, owner**
- Google Calendar コンポーネントは Google Calendar™ から存在しないユーザのアクセス権を取り消そうとした場合、エラーを返しません。

Salesforce コンポーネント

- Salesforce コネクタは Proxy(プロキシ)の認証が基本認証のみの場合は動作しません。

データマッパー

- 適切な変換が行われない限り、Unicode データは Base64 としてエンコードされた XML ノードにマップすることはできません。
- データマッパーでデータベースにアクセスする際、select、delete、update 文で where 句を使用する場合、文字列項目の前後に必ず「'」(シングルクォーテーション)を付与する必要があります。
◦ <例> update 社員マスタ set 住所='神奈川県' where 社員 ID='<?C.UserString?>'
- jBOLT V3.2 では、データマッパーの送り先に変数 (Variables) を設定し、送り先の文字型変数に半角空白かブランクを計算値として入力した場合、結果として文字型変数には NULL が設定されていました。Magic xpi 4.7 で同様の動作をさせた場合、文字型変数にはブランクがセットされます。
- データベース名、テーブル名、列名に**環境依存文字**が使用されている場合、データマッパーおよび SQL ウィザードでは一覧にテーブル名等が**表示されません**。
- ODBC 接続は Windows プラットフォーム上の DBMS に対する接続がサポートされます。Windows プラットフォーム以外の DBMS に対する ODBC 接続はサポートされません。
- Magic xpi 4.7 は Oracle、MSSQL、DB2、DB2/400 に対しては専用の接続モジュールにより接続、動作を行います。ODBC での接続およびその動作は DBMS ベンダー等が提供する ODBC ドライバに依存します。ODBC 接続を行う際は事前の検証が必要な場合があります。

Web サービス コンポーネント

- マイグレーションユーティリティでは Web Service トリガーの情報が正常に移行されないため、Magic xpi 4.7 で再度設定して頂く必要があります。
- フロー内で Web Service を使用する際(WebService トリガー(Provider)および Web Service Client とともに) XML を作成する際は必ずエンコードを UTF-16 に設定する必要があります。
- Web サービスのサービス定義画面で、オペレーションおよびアタッチメントの引数名に日本語を使用することはできません。

- Web サービスのネームスペースについて
サービスリポジトリで WebService のサービスを定義する際、「管理」ダイアログで「Generate(生成)」ボタンを押すと、WSDL ファイルを作成します。この時、ネームスペースのドメイン名にハイフン"."が含まれていると、WSDL の作成に失敗します。その場合はハイフンを削除するか、下線"_"などに置き換えてください。また、使用できる文字列は英大小文字及び数字ですが、ドメイン名を数字で始まることはできません。その他 if や null などの言語系で使用される予約語も使用できません。

IBM i サーバ関連

- Magic xpi 4.7 のデータマッパーおよび IBM i コネクタがサポートしている IBM i OS バージョンは V5R4 以降です。
- Magic xpi 4.7 でデータマッパーおよび IBM i コネクタを使用するには IBM i に Host Library のインストール/設定が必要です。インストールおよび設定については Help フォルダ内「Magic xpi 4.7-DB2400.pdf」を参照してください。
- データマッパーの送り先で IBM i 上の DB2/400 を使用する場合、ウィザードで SQL 文を生成すると分離レベルとして「WITH NC」が付加されます。この場合、フロー特性・データマッパー構成のトランザクション設定は挿入時のみ有効になります。更新・削除時にトランザクション処理を行う場合には「WITH NC」を削除してください。
- データマッパーの送り先で IBM i 上の DB2/400 上のジャーナルの存在しないテーブルに対して更新・削除を行う場合、分離レベルとして「WITH NC」が指定されている必要があります。
ジャーナルの存在しないテーブルを扱う場合にはフロー特性およびデータマッパー構成のトランザクション設定は無視されます。
- IBM i 上の DB2/400 の DBCS 専用/混用/択一フィールドに対し DBCS 文字列で更新を行う場合、シフトイン・シフトアウトコードの付加により桁数がオーバーした場合にはエラーになります。
- IBM i データタイプの浮動小数点数型(FLOAT 型)はサポートされません。
- 複数の IBM i システムを利用する場合、異なる名前のホストライブラリを複数同時に利用することはできません。すべての IBM i システムのホストライブラリが同じ名前である必要があります。
- IBM i コネクタのメソッド「Run Query」を使用する際、「クエリ名」欄には「ライブラリ名/クエリ名」の順序で指定してください。同様に、「クエリファイル」欄には「ライブラリ名/クエリファイル名」の順序で指定してください。ヘルプファイルにはそれらの順序が逆の指定になっているので、注意が必要です。また、同メソッドの「出力タイプ」欄に、パラメータ「*DISPLAY」の値は有効ではありません。指定しても System i(IBM i) 側では Run Query は実行されません。
- Magic xpi 4.7 が IBM i に接続する際、IBM i 側ユーザプロフィールの CCSID は 5035 にしてください。それに合わせて、Magic xpi 4.7 側 MAGIC.INI の [MAGIC_DBMS] の DBCS パラメータ設定は以下のように設定してください。
DBCS=IBM-943:IBM-5035

IBM i コネクタでデータキューの送受信を行う場合 (Send data to Queue、Receive Queue Data、及びトリガー使用時)、キューのデータ長は実際の長さよりも余裕を持たせてください。十分な長さが無い場合、文字化けをすることがあります。

Notes サーバ関連

- Domino および NotesDB コンポーネントをトリガーとして使用することはできません。

Excel/Word コンポーネント

- サーバ OS では Windows Server 2008 以降の OS において、セキュリティ対策の一環として、セッション 0 の分離の対応がなされています。
<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/windows/dd871151.aspx>
<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/aa480152.aspx#EGFAE>
このセッション 0 の分離の影響により、「Magic xpi 4.7 GSA」サービス経由 (Windows のサービス) で起動された Magic xpi サーバでは、Microsoft Excel コンポーネントや Microsoft Word コンポーネントを利用した、Office 連携処理が動作しないことが確認されました。
この問題に対処するには、「Magic xpi 4.7 GSA」サービスを Windows のサービスではなく、以下のバッチファイルを手動で起動することで対処します。
`<magic xpi>\Runtime\Gigaspaces\bin\magicxpi-gs-agent.bat`
このバッチファイルを起動するには、Windows サーバに Administrator 権限を持ったユーザでログインする必要があります。起動した状態で Windows サーバからログオフすると、全 Magic xpi プロセスが停止してしまうのでご注意ください。

SharePoint コンポーネント

- SharePoint Online (office365 認証) でユーザサイトを作成した場合、リソース設定の「Site」欄に、作成したユーザサイト名を記述する必要があります。その際、作成したサイトの日本語名を設定するのではなく、URL のユーザサイト部分 (半角英数文字) を設定してください。
(例日本語サイト名：チームサイト → URL 内ユーザサイト部分：TeamSite)

File Archive コンポーネント

- File Archive コンポーネントでは ファイル名に「[」、「]」が含まれている場合、正しく動作しません。その際はワイルドカードの「?」を指定してください。
- File Archive コンポーネントではファイルパス、ファイル名 (接頭辞を含む) に日本語が使用されている場合、日本語が文字化けします。

File Splitter コンポーネント

- File Splitter コンポーネントではファイル名に「(」, 「)」が含まれている場合、正しく動作しません。
- File Splitter コンポーネントではファイルパス、ファイル名に日本語が使用されている場合、日本語が文字化けします。

FTP コンポーネント

- FTP コンポーネントにおいて、ファイル名およびフォルダ名(ローカル/サーバ共に)を指定する際、**環境依存文字**は使用できません。

SAP R3/A1 コネクタ

- SAP R3/A1 コネクタの使用時、以下のような Java Runtime エラーが発生する場合があります。

java.lang.UnsatisfiedLinkError: C:\Magicxpi4.7\Studio\sapjco3.dll: このアプリケーションの構成が正しくないため、アプリケーションを開始できませんでした。アプリケーションを再度インストールすることにより問題が解決する場合があります。

```
at java.lang.ClassLoader$NativeLibrary.load(Native Method)
at java.lang.ClassLoader.loadLibrary0(ClassLoader.java:1803)
at java.lang.ClassLoader.loadLibrary(ClassLoader.java:1728)
at java.lang.Runtime.loadLibrary0(Runtime.java:823)
at java.lang.System.loadLibrary(System.java:1028)
at com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.loadLibrary(DefaultJCoRuntime.java:443)
at
com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.registerNativeMethods(DefaultJCoRuntime.java:309)
at com.sap.conn.jco.rt.JCoRuntime.registerNatives(JCoRuntime.java:1030)
at com.sap.conn.rfc.driver.CpicDriver.<clinit>(CpicDriver.java:956)
at
com.sap.conn.rfc.engine.DefaultRfcRuntime.getVersion(DefaultRfcRuntime.java:43)
at com.sap.conn.rfc.api.RfcApi.RfcGetVersion(RfcApi.java:261)
at com.sap.conn.jco.rt.MiddlewareJavaRfc.<clinit>(MiddlewareJavaRfc.java:200)
at com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.initialize(DefaultJCoRuntime.java:74)
at com.sap.conn.jco.rt.JCoRuntimeFactory.<clinit>(JCoRuntimeFactory.java:23)
at com.sap.conn.jco.rt.RuntimeEnvironment.<init>(RuntimeEnvironment.java:42)
at sun.reflect.NativeConstructorAccessorImpl.newInstance0(Native Method)
at
sun.reflect.NativeConstructorAccessorImpl.newInstance(NativeConstructorAccessorImpl.java:39)
at
```



```
sun.reflect.DelegatingConstructorAccessorImpl.newInstance(DelegatingConstructor
Accesso21Impl.java:27)
at java.lang.reflect.Constructor.newInstance(Constructor.java:513)
at java.lang.Class.newInstance0(Class.java:355)
at java.lang.Class.newInstance(Class.java:308)
at com.sap.conn.jco.ext.Environment.getInstance(Environment.java:125)
at
com.sap.conn.jco.ext.Environment.registerDestinationDataProvider(Environment.jav
a:220)
at com.magicsoftware.ibolt.sapr3.IBConnection.register(Unknown Source)
at com.magicsoftware.ibolt.sapr3.IBConnection.<init>(Unknown Source)
at com.magicsoftware.ibolt.sapr3.IBSapR3.<init>(Unknown Source)
```

このエラーが発生した場合、以下の URL より「Microsoft Visual C++ 2005 Service Pack 1 再頒布可能パッケージ ATL のセキュリティ更新プログラム」を取得し、インストールする必要があります。

<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=14431>

DynamicsAX コネクタ

- DynamicsAX コネクタを使用するには、Magic xpi をインストールするコンピュータに以下を予めインストールしておく必要があります。NET CLR(Common Language Runtime : 共通言語ランタイム)が 2.0 である必要があります。
 - Windows7 の場合
 - (1) .NET Framework2.0、3.0、3.5 のいずれか
 - (2) .NET Framework4.0 あるいは 4.5
 - (3) Windows SDK 7(Magic xpi スタジオを使用する場合 :
.NET Framework4.0 の時)
 - (4) Windows SDK 8(Magic xpi スタジオを使用する場合 :
.NET Framework4.5 の時)
 - Windows8、10、Windows Server 2012、2012R2 の場合
 - (1) .NET Framework2.0、3.0、3.5 のいずれか
 - (2) .NET Framework4.5
 - (3) Windows SDK 8(Magic xpi スタジオを使用する場合)

XSLT コンポーネント

- XSLT スタイルシートに日本語が含まれる場合、正しく変換されず、文字化けをおこします。

ディレクトリスキャナー コンポーネント

- ディレクトリスキャナー コンポーネントをトリガーとして使用する際、マスク欄に日本語を使用することはできません。

HTTP フレームワーク設定

- HttpFramework は Magic.ini ファイル内に定義されていますが、デフォルト値は D(.NetFramework) で、この値を変更すると HTTP コンポーネントが正しく動作しません。

UDS

- UDS 使用時、デバッグ時に UDS 定義内の Blob 項目の内容をコンテキストビューから表示する際、文字化けすることがあります。

コネクタビルダー

- コネクタビルダーは以下の OS での使用時のみサポートされます。
Windows® 7
Windows® 8
Windows® 10

HTTP コンポーネント

- HTTP コンポーネントの POST/PUT で BODY を送信する場合、ヘッダに Content-Type とエンコーディングヘッダを指定し、BODY 内のエンコーディングと一致させる必要があります。例えば、UTF-8 でエンコードされた JSON 本体の POST リクエストを送信する場合は、ヘッダに次のように指定する必要があります。
Content-type: application/json; charset=utf-8

過去のリリースノート

PastReleaseNotes.pdf ファイルを参照してください。

修正された問題

QCR #	Description
132015	WS Deployment failed when the Web Service Server resource used environment variables for the server URL, user and password.
132080	The "Object class violation" error was thrown when using the "@" character in the LDAP connection string for assigning a user to a group.
136870	The FTP component's Local Change Directory method affected other steps from other flows if a Multi Put method with no files to transfer was also used in the same step.
137655	When trying to change a DB Name in the Data Mapper from lower case to upper case, the following error appears: "The schema name must be unique".
137796	The script name "mysql_create_db.sql" used for creating tables for the internal Magic xpi MySQL database was misleading since it contained 'db' in the name and it is now named "mysql_create_tables.sql".
138559	Trying to validate a SharePoint resource with ADFS turned on, resulted in an error.
139741	In the Magic Monitor, the Delete Activity Log function did not clear the log.
140766	The Delete operation for the HTTP REST Method did not work when the HTTP body was empty.
140889	Logical names used for the DB2/400 library names were translated in the SQL statement.
141431	The 'Save Copy As' option in the Studio did not give an error regarding the maximum length of the project name.
141685	In the HTTP requester, the arguments of the Date type threw errors when the date was entered with a delimiter other than a slash.
141696	In the HTTP REST method configuration, the 'URL Dynamic Addition' field parameter was not long enough.
141958	The Magic xpi Studio crashed on Windows 2012 R2 Server after some period of active usage.
142412	When multiple libraries were defined with the same DB resource, the INSERT statement always added entries into a single library.
142782	When creating a new resource in the Magic xpi Studio, an error was thrown on Windows Server 2012.
142785	When using a Call Flow schema as a destination in the Data Mapper a runtime error was thrown, if the called flow name was identical to some other flow name in another Business Process.

QCR #	Description
142813	The project failed to start, giving the "SAP B1 component does not exist in the project. Magic xpi Server will shutdown." error when the license file had the IBSBO feature with the B1 flag set to Y.
142980	In the clustered mode, the HTTP trigger returned an empty response when a request was received by the web requester for the first server, whereas the request was handled by the second server.
143104	An SQL query containing the INSTR clause was malformed at runtime and produced incorrect results.
143162	The Gigaspaces services stopped working after Windows 10 Operating System was updated to the Release 15063.138
143163	In a SharePoint component, the schema names containing blank spaces caused runtime errors.
143184	In the Data Mapper, an XML destination's output variable contained incorrect names for replicated nodes.
143212	The File Splitter component produced incorrect results when the length of the path to the destination folder exceeded 100 characters.
143266	SSJ service failed when the length of the project name exceeded 27 characters.
143311	The configuration dialog for the .NET Utility connector did not populate the list of flow variables with their values.
143327	For a Salesforce resource, OAuth2 authentication failed when the Salesforce server was accessed through a proxy server with its own user authentication.
143357	The Studio crashed when a step referring to flow variables was copied from one flow and pasted into another flow.
143572	After migrating a project from Magic xpi 4.5, the user could not define a resource for a user component.
143579	The CallPublic function with a non-character return value caused errors at runtime.
143591	After migrating a project from Magic xpi 4.1 to 4.6 with a configured .NET component, the .NET configuration screen would not open.
143592	The name of the variable was not saved in the .NET component configuration screen.
143641	The Email trigger for an IMAP mail server did not put the attachment from the incoming mail into the variable defined in the Arguments XML Location.
143657	After migrating a project from Magic xpi 4.0, expressions with custom functions failed to work.
143669	In the Expression Editor, the BlobRemoveBom function was missing from the functions list
143682	The Salesforce connector's Bulk Create operation transferred the data with an incorrect encoding.

QCR #	Description
143706	When a copy of a project was created with the "Save copy as" option, the new name, and the path were not updated in the start.xml.
143724	The WCF Client resource threw an error "Compiled proxy not found" while loading a specific Web service.
143729	Magic XPI Studio hanged while attempting to remove an XML from the Data Mapper source.
143732	In a Data Mapper, the STRFormat function with arguments referencing source nodes caused the Studio to crash when building the project.
143748	The Update and Create operations for a SugarCRM Trigger failed when used with a multi-select custom field.
143871	When selecting the All option as the owner, the table list showed garbage (symbols) for table names.
144077	The Magic xpi Studio crashed on using the ODBC driver for a Cache database.
144097	Since SAP B1 9.2 PL 05 version, Magic xpi could not establish a connection due to changes to the API for the Company object, and the license server was defined using the SLDServer property instead of the LicenseServer property.
144158	After migrating a project from Magic xpi 4.1, the calculated values were lost when using an XML schema as a destination without defining the source in the Data Mapper.
144189	Replicated nodes of XML schema and their mappings were lost after migration.
144273	In the Java Class Connector, when a method returned a string of over 15000 characters, the flow crashed at runtime even though the maximum length of the string variable was 100000 characters.
144353	The WCF connector threw an error at runtime for a given service.
144372	For a specific project, the Text Search feature caused the Studio to hang.
144420	Appending the data from the subsequent Salesforce connector requests gave an incorrect result.
144431	For Call Flow and Variable default values, the variable was not truncated based on its length definition.
144573	When configuring multiple parameters in the Web service, the buttons at the bottom of the configuration dialog disappeared.
144574	Some sections of the MAGIC.ini configuration file were deleted when editing a resource.
144663	A specific XML schema in a Data Mapper caused the Studio to hang on opening the step for editing.
144683	In a destination Database schema, changing the INSERT statement to UPDATE and vice versa caused the mapping to be lost.
144721	The Logging function threw a runtime error due to an incorrect number of arguments.

QCR #	Description
144749	In a replicated Destination node, when the Mapper was not opened in a separate tab, the Checker returned an error for a valid expression causing the build to fail.
144750	The record level's destination mapped node calculations were missing after migrating the projects from Magic xpi 4.1 to 4.5a or 4.6.
144751	In a replicated Destination node, a condition expression could not be set on the first node, whereas it could be set on the replicated one.
144850	The Unload method for the trigger in the Connector Builder threw an exception and failed to work.
145025	For an HTTP POST method using a Java Web requester, the return HTTP Body data was cut.
145090	In the REST method called by the HTTP component, the header was truncated at runtime when the Header Set contained a comma.
145148	The Bulk Upsert operation in the Salesforce connector threw an error when multiple projects ran in parallel.
145259	For an MSSQL database, the project failed to run and displayed an "Out of Memory" error, in a special scenario when the record length exceeded 32K.
145290	In the Connector Builder, for a component with a Method interface set as default for the step, the result variable was not updated at runtime.
145310	In the Data Mapper's Source and Destination panes, AnyOf, AllOf, and OneOf clauses for an array item node were not displayed for JSON schemas.
145416	The Include Delimiter property in the Bulk Upsert destination flat file of the Salesforce connector was set to No and could not be changed after migrating a project.
145469	Appending an XML context variable successively in a called flow caused incorrect results.
145482	The Sugar CRM Resource failed to Validate/Connect, if the REST Endpoint URL had mixed upper and lower case letters in it.
145594	Some Data Mapper schemas were incorrectly migrated from IBOLT 3.2a projects.
145904	In a Data Mapper, on creating a Flat File > Positional with empty "From" property, a garbage character was added to the Flow Variable value, after migrating a project from Magic xpi 4.1 to 4.6.
146036	The SAP R3 Trigger failed to restore its operation when the network was disconnected for a longer period of time.
146040	For AS/400 System, 10 characters long library names were shown truncated in the list of libraries for the DB2/400 resource.
146041	DB2/400 Library name was truncated to 8 characters.
146093	A specific WSDL could not be loaded into a WCF client or Dynamic AX resource and threw the "Compiled proxy not found" error.



QCR #	Description
146100	In a Data Mapper's Database schema, the SQL query failed to execute for DB2/400 when the concatenation operator was used in the query.
146119	In the Connector Builder, the resources defined for a user component could not be accessed in the Environment Editor.
146158	SAP R/3 connector threw an error at runtime when the input XML was empty.
146161	When configuring a SAPB1 8.8 step, the server returned an error for a valid resource if the logical name used was longer than 30 characters.
146202	An error was thrown in the Data Mapper while loading a specific schema.
146245	With XSD Sub Type defined as XML Position Forwarding on the source side, the Data Mapper failed to use the INSERT statement for a destination database.
146262	In the Method interface of the HTTP step, the default length of the string in the Header Set parameter was insufficient.
146277	The Replicate All Data method of the Salesforce connector threw a runtime error due to an incorrect definition of SObjectType and Field columns in the FieldPermissions table.
146230	The HTTP response did not contain the status code when HttpFramework = D was set in the MAGIC.ini file.
146291	In the documentation for the Salesforce component's XML interface, the setRefbyExternalId function was not excluded from bulk operations.
146296	After migration, the Data Mapper threw an error, "Some of the schema's data does not exist or might be invalid", for a specific scenario.
146332	When the Salesforce step returned an error at runtime, the resulting XML was incorrect.
146333	When migrating the project, some of the variables did not pass to the called flow.
146342	The Select schema file input line, in the Data Mapper, for the selection of a file had an insufficient height for long paths.
146380	For a date field in the Data Mapper, the custom format was not saved.
146381	When a scheduled flow was enabled using the Enable Flow utility, the scheduler was called twice.
146494	Changing the default paths for the Resources.xml and Services.xml in the Project Properties caused the entries to duplicate and the build to fail.
146569	The Studio crashed when a Data Mapper's source referred to an invalid JSON schema.
146641	The Update operation in the Dynamics CRM component returned an incorrect result XML BLOB with the duplicated nodes.
146693	In the FTP and Directory Scanner connectors, SFTP HMACs such as hmac-sha2-512 and hmac-sha2-256 were not supported.
146747	The WCF Client connector returned a runtime error for a valid request to a specific Web service.



QCR #	Description
146852	When trying to validate the SAPB1 resource with MS SQL Server 2016 as a database, the resource didn't validate.
146759	The Data Mapper's SQL wizard resulted in an "Invalid SQL Statement" error if a table name contained the SQL reserved word SET.
146816	A Magic xpi project stopped processing with a warning in the log "Server Status is ON HOLD" causing high memory consumption and CPU getting maxed when Magic Monitor was left open on both the App Servers.
146868	The performance of a WCFClient component was degraded.
146978	The project failed to start when the Resources.xml file was in a read-only mode.
147003	The Magic xpi Debugger did not recognize a breakpoint and therefore, did not suspend the flow in a specific project.
147319	In the Exchange connector, the query operation returned an empty result when a folder name contained blank spaces.
147456	In the WCF Client configuration page, the Service URL containing %20 instead of a blank space caused an error at the time of loading the service.



Magic xpi 4.7 で使用可能なアダプタ

アダプタ/コネクタ/ユーティリティ	標準装備	別売
ユーティリティ		
.Net Utility	○	
BAM ユーティリティ	○	
Flow Data	○	
Java クラスコネクタ	○	
Magic xpa	○	
NOP	○	
PSS サブスクリプション	○	
PSS パブリッシュ	○	
PSS 削除	○	
Web Service	○	
アポートフロー	○	
アンロック リソース	○	
イベントを待つ	○	
イベント発行	○	
スケジュールフロー	○	
データマッパー	○	
フロー呼出	○	
フロー有効	○	
メッセージ保存	○	
リフレッシュ コンバージョン	○	
ロック リソース	○	
検証	○	
遅延	○	
遅延フロー呼出し	○	
トリガー		
Directory Scanner	○	
Email	○	
Exchange	○	
HL7(日本ではサポート対象外)	○	
HTTP	○	



IBM i	○	
JMS	○	
MSMQ	○	
OData	○	
Salesforce		○
SAP A1		○
SAP R/3		○
SAPB1 2004		○
SAPB1 2005		○
SAPB1 2007		○
SAPB1 8.8		○
ServiceMax		○
Sugar		○
TCP Listener	○	
Web Service	○	
WebSphere MQ	○	
スケジュール ユーティリティ	○	
MQTT	○	
コンバータ		
HL7(日本ではサポート対象外)	○	
XSLT	○	
ファイル管理		
Directory Scanner	○	
Microsoft Excel	○	
Microsoft Word	○	
XML Handling	○	
ファイルアーカイブ	○	
ファイル管理	○	
ファイル分割	○	
暗号化	○	
コネクタ		
.NET Utility	○	
Dynamics AX 2012		○
Dynamics CRM		○



Exchange	○	
Google カレンダー	○	
Google ドライブ	○	
IBM i	○	
JD Edwards Enterprise One		○
JD Edwards World		○
LDAP	○	
NotesDB	○	
Salesforce		○
SAP A1		○
SAP R/3		○
SAPB1 2004		○
SAPB1 2005		○
SAPB1 2007		○
SAPB1 8.8		○
ServiceMax		○
SharePoint		○
Sugar		○
WCF Client	○	
通信		
FTP	○	
HTTP	○	
TCP Listener	○	
メール		
DOMINO	○	
Email	○	
Connectors		
MQTT	○	
OData	○	
メッセージング		
JMS	○	
MSMQ	○	
WebSphere MQ	○	



Magic Software Enterprises について

Magic Software Enterprises (NASDAQ: MGIC) empowers customers and partners around the globe with smarter technology that provides a multi-channel user experience of enterprise logic and data.

We draw on 30 years of experience, millions of installations worldwide, and strategic alliances with global IT leaders, including IBM, Microsoft, Oracle, Salesforce.com, and SAP, to enable our customers to seamlessly adopt new technologies and maximize business opportunities.

For more information, visit www.magicsoftware.com.

Magic Software Enterprises Ltd provides the information in this document as is and without any warranties, including merchantability and fitness for a particular purpose. In no event will Magic Software Enterprises Ltd be liable for any loss of profit, business, use, or data or for indirect, special, incidental or consequential damages of any kind whether based in contract, negligence, or other tort. Magic Software Enterprises Ltd may make changes to this document and the product information at any time without notice and without obligation to update the materials contained in this document.

Magic is a trademark of Magic Software Enterprises Ltd.

Copyright © Magic Software Enterprises, 2017



OUTPERFORM THE FUTURE™